

2023年7月7日生駒山上～枚岡神社で観察した植物

作岡田弘

ネジバナ（振花）ラン科ネジバナ属 別名モジズリ＊花期＝4～9月＊花言葉＝思慕

名前の由来＝学名は螺旋状の花、見たまを表している、和名の「ネジバナ」も捻じれた花と見たまま名づけられた。**万葉集**には「芝付の御宇良崎なる根都古草逢ひ見ずあらば吾恋ひめやも」と詠まれ「根都古」がネジバナです。**百人一首**にも「みちのくのしのぶもじずり誰ゆえに乱れそめにし我ならなくに」と詠まれ、もじずり、がネジバナです。日当たりの良いやや湿つたと場所を好む、外国では「夫人の編んだ髪」といわれている、冬葉は短くて丸い葉をして、地べたに張り付いて放射状なっている、春、暖かくなると冬場の中心から夏葉が出て花径を延ばすと冬葉は枯れる、秋になると夏葉の脇から冬葉が出て夏葉は枯れる。ネジバナは共生菌（菌根菌）と共生しているので攪乱すると枯れてしまう。



ウツボグサ（靱草）シソ科ウツボグサ属＊別名、夏枯草（カコソウ）

名前の由来＝武士が弓矢を入れて背負う「靱」という道具を覆っている皮と「ウツボグサ」の茎や葉の毛が似て居ることに由来。日本全国の山野に自生する多年草、高さ10～30cm葉は対生、長楕円状披針形、茎の先に長さ3～8cmの花穂を付け紫色の唇形花を密に付ける。茎は地面を這うように延ばし四角形の茎が斜め横から生えてくる。日本最古の医学書にも出てくるほど古くから親しまれていた植物です。その効能は、塩化カリウムやタンニンなどの成分が含まれている、利尿効果、むくみ取、消炎作用、糖尿病、膀胱炎、腎臓病、口内炎、喘息、などの効用があると言われている、漢方薬としても使われている、＊**花言葉**＝優しく癒す・協調性＊**花期**＝5～7月



ヤブジラミ（藪虱）セリ科ヤブジラミ属・別名クツツキムシ＊花期＝5～7月

名前の由来＝藪に生えている実がシラミに似ているから、服などにくっついていいる様子がシラミを連想させるから。日本全国の山野や道端に自生、茎は直立して良く分枝で30～70cmになる越年草、葉は互生長さ5～10cm 1～3回羽状複葉となり小葉は厚みがあり細かく切れ込み、両面とも粗い短毛がある。＊**花言葉**＝逃がさない・ジキルとハイド



トウバナ（塔花）シソ科トウバナ属＊花期5～8月

名前の由来＝花の付き方が、多段に輪生状につくので五重塔のような仏塔に見立てて。関東以西の山野道端に普通に自生している多年草、高さは15～20cm葉は卵生で対生、茎の先に淡紅色小さな唇形花が数段に輪生する。**花言葉**＝私を閉じ込めないで・人間味のある。私を閉じ込めないでの花言葉は西洋のイメージでとらえたものです、塔は窓から降りることが出来ないの、人を閉じ込めた際、内側のみ見張れば良いので、有名なロンドン塔も監獄として利用された歴史があります。



ミツバ（三つ葉）セリ科ミツバ属＊花期＝7～8月

名前の由来＝一本の茎に葉が三つつくので。野生の物は香りが強く色が濃い。今回の生駒下山中の道端に非常に多く生えて花を付けていた。一人も採集して持ち帰る人はいなかった。三つ葉はどんぶりや吸い物の添え物のイメージが強いが、豊富な栄養と効能があります、鉄分やカルシウムの他にミネラル分、ビタミンA・Cを含み効果は＊目や皮膚の粘膜を保護し視力の低下や肌のトラブルを防ぐ＊血流が良くなり貧血や冷え性改善に効果＊肝臓の働きを良くし胆汁を運ぶ力を増強する。等、又、三つ葉の香り成分クリプトテネンとミツバエンは、鎮静作用と食欲増進作用がある、不眠症を改善する効果が期待できる。胃腸の働きを活発にする効果もある。



ナワシロイチゴ（苗代苺）バラ科イチゴ属＊花期＝5～6月

名前の由来＝稲の苗代を作る頃に花を咲かせるので。落葉低木で、茎は匍匐して広がり茎や葉にトゲがあるのが特徴、これは外敵である動物に食べられないようにするための防護と考えられている。花は枝先や葉の腋に小さなピンク色の花を咲かせる、見た目には「オシロイバナ」に似ている、あまり目立ちません、花弁は5枚で萼に毛が密集している、イチゴの実は集合果で1.5cm程の球形ですが、小さな果実が複数集まって出来ているので一つの粒は約7mmほどです、実は6月末から7月に赤く熟すので食べごろとなるが、酸味が強いので生食はお勧めできない、ジャムを作るのに良い。＊**花言葉**＝誘惑・恩恵
今回、石垣のところに2箇所実が熟していた、私は食べました。他は

